



たがわ ゆうこ
田川 裕子さん
3人の子どものお母さん。育児と仕事を両立させ、現在は九州ティ・エス総務課に勤務。管理職として、産業カウンセラーなどの資格を生かしながら従業員の人材育成を行っています。

チャレンジすることをためらわないでほしいですね

子どもが大きくなり、医療事務として働き始めましたが、帰りが遅くなるのが嫌で転職を考えました。現在の職場に来たのも、何か自分の居場所が見つかるとは思いますが、会社組織で働くのは初めてで、戸惑うことも多く、決して楽ではありませんでした。けれど仕事が少しずつできるようになってくると、個人として認められているという充実感が出てきたように思います。仕事や家庭でストレスを感じ、疲れることもありましたが、そんな中で、自宅を出たら仕事のことを考え、退社と同時に家族の食事の心配や子どもたちのことに気持ちのスイッチを切り替える必要があったことは、仕事と家庭の両方にうまく作用したように思います。

当社の女性にとって、結婚したら出産して育児休業を取り、復職して仕事をする。時には別行動もあるけど、やっぱり一緒にいたい。子どもたちは、□ではいつも反対のことばかり言っていて、嫌いなのか好きなのか分からない時もあります。だけど「お父さんもお母さんも大好き」と言ってくれます。長男に対しては、ちょっと過保護だったかもしれない。何かと手をかけすぎていたように思います。保育園では仲良しのようにですが、家ではきょうだいげんかをよくしていますね。このけんかや保育園での生活のなかで、以前よりも子どもたちにも自尊心が育ってきているし、子どもも自体も落ち着いてきているのではないかと感じます。

仕事で疲れて帰っても、子どもとかかわっていると元気をもらいます。子どもはいつも動いて、楽しく遊んでいるので、自然とわたしの気持ちも外に向いて気分解消になっていることに気がきます。自然体で家事や育児にかかわってきているので、特別の意識はないです。わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。

子どもとできることを一緒に楽しみたいんです

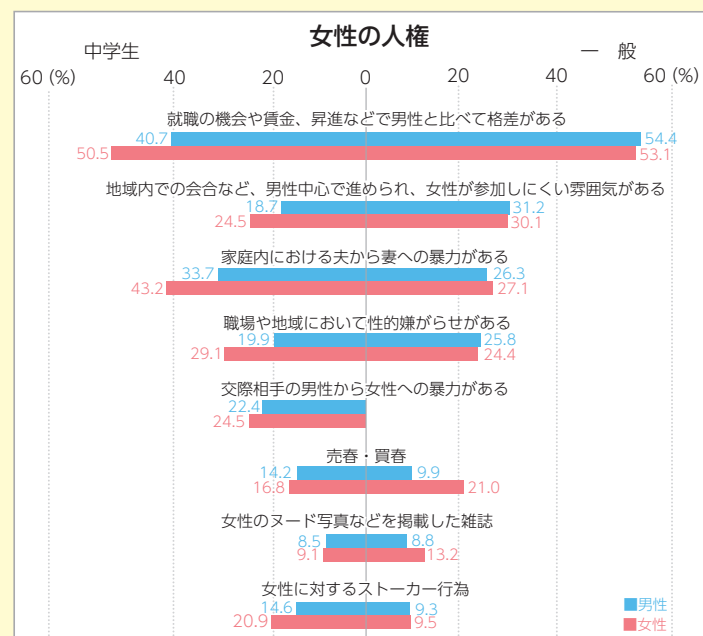
妻とは同じ職場に勤務していて、都合の付く限り2人で保育園への送迎を行っています。保育園の行事にも、できるだけ参加しています。子どもが生まれる前は、育児や家事にあまり関心を持っていませんでした。本心に、子どもが生まれてからです。それも誰かにお願ひされたわけでも、「しなさい」と言われたからでもありません。オムツ替えや子どもの食事、長男が生まれたときはいつも抱いていたかな（笑）。妻が子どもと接している時は、食器洗いをすることもあります。



くろあき かずお
荒井 一夫さん
2人の子どものお父さん。同じ職場に勤める妻と協力して、保育園への送り迎えや家事をこなしています。家族との時間を大切に、自然体で楽しみながら子育て中です。

わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。

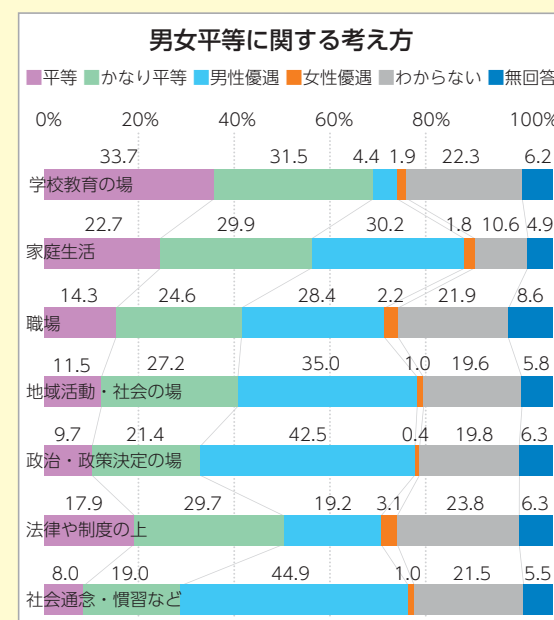
わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。わたしは、子どもと一緒に過ごす期間は、一時期のものだと思っています。だから成長を見ていたい。今、子どもとできることを一緒に楽しみたいという気持ちを常に持っています。今しかないから、一緒にできることをやりたい。だから休日、いつも家族一緒に過ごす。



女性の人権が尊重されていないと感じるのはどんなときか調査したところ、グラフのような結果となりました。男女ともに、約半数の人が「就職の機会や賃金、昇進などで男性と比べて格差があること」について女性の人権が尊重されていないと感じています。また「地域内での会合など、男性中心で進められ、女性が参加しにくい雰囲気があること」、「家庭内における夫から妻への暴力があること」との回答も多く、職場だけでなく、地域、家庭内など、さまざまな場面で挙げられています。中学生では「家庭内における夫から妻への暴力があること」と回答した人の割合が高く、特に女子中学生では4割を超えています。

女性の人権

調査では、市民の男女平等に関する考え方として、男女の地位の平等感を調査しました。グラフからは、特に社会通念・慣習、政治・政策決定の場、家庭生活や地域といった昔からある習慣に基づく分野において不平等感が高くなっているのが分かります。男性が優遇されていると感じるのは、社会通念・慣習など（44.9%）、政治・政策決定の場（42.5%）、地域活動・社会の場（35.0%）となっていて、まだ男性優遇と感じる人が多いことが分かります。一方、男女平等であると考える人が多くなっているのは、学校教育の場（65.2%）、家庭生活（52.6%）となっています。



男女平等に関する考え方

去年、男女共同参画に関わる市民意識調査を行いました。

アンケートから見える市民の意識 男女共同参画意識調査